

ID No.	3033
研究課題名	インフルエンザウイルスのゲノムパッケージング機構に関する研究
研究代表者	野田 岳志 (京都大学・教授)
研究組織	
受入教員	河岡 義裕 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	中野 雅博 (京都大学・助教)
	神道 慶子 (京都大学・研究員)
	村本 裕紀子 (京都大学・研究員)
	Jamie Gilmore (京都大学・研究員)
	武長 徹 (京都大学・大学院生)
	宮本 翔 (京都大学・大学院生)
研究報告	<p>インフルエンザウイルス粒子は、8種類の RNA 分節を選択的に取り込む。8種類の RNA 分節はウイルス粒子内で、中心に1本+その周囲に7本という“1+7”に配置されて取り込まれる。しかし選択的ゲノムパッケージング機構における“1+7”配置の重要性は明らかにされていなかった。本研究ではリバースジェネティクス法により HA 分節を欠いた HA 分節欠損7分節変異ウイルスを作出し、そのゲノムパッケージングを解析した。その結果、7分節変異ウイルスにおいても“1+7”に配置された8本の RNA が取り込まれること、また8本目の RNA として宿主細胞由来の ribosomal RNA が取り込まれることを見出した。従って、選択的ゲノムパッケージング機構において“1+7”配置は重要なステップであること、また、ゲノムパッケージングの際に宿主 RNA が利用されることもあることが明らかになった。</p>